

令和6年度 自己評価および学校関係者評価書

令和7年2月吉日
函館市立駒場小学校

1 本年度の重点教育目標

よさに気付く～自分のよさに気付く 相手のよさを認め 学びに生かす

2 本年度の取組の重点

- (1)「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた教育課程の編成、実施、評価、改善
- (2)確かな学力の向上,「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた学習指導の充実
- (3)豊かな心を育む道徳教育の推進
- (4)自主的,実践的な態度を育て,よりよい人間関係を築く特別活動の推進
- (5)児童理解に基づき,自発的,自立的な態度を育む生徒指導の推進
- (6)一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実
- (7)生命を尊重し,自ら心身を鍛える健康安全教育の充実

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価
教育課程	知識・技能,思考力・判断力・表現力,学びに向かう力等をバランスよく育成する教育課程の進行管理ができたか。	a		A	A
学習指導	楽しく、「わかる・できる」授業を工夫することができたか。	a		A	A
	学習規律,学習習慣の一層の定着を図ることができたか。	b	家庭学習習慣が身に付くよう、家庭学習強調週間を利用して家庭と協働した取組を進める。	A	A
道徳教育	道徳科を中心に教育活動全体を通じて道徳性を育成できたか。	a		A	A
特別活動	学級や学校の生活をよりよくする学級活動の充実ができたか。	a		A	A
生徒指導	生徒指導の機能を生かし,支持的風土と規律ある学級経営に努めることができたか。	a		A	A
	いじめ,不登校等の未然防止のための教育活動を計画的に取り組むことができたか。	a		A	A
	挨拶の奨励,生活リズムの調整を家庭と連携して進めることができたか。	b	メディアに触れるルールについて,家庭への呼びかけを継続する。	A	B
特別支援教育	教職員の共通理解と協力体制のもと,個性等を伸ばし,自立と社会性を培う特別支援教育を推進することができたか。	b	専門的な見解を支援に反映できるよう,特別支援教育の研修を深めていく。	A	B
健康安全教育	児童が進んで運動に親しみ,体力や運動能力の向上に取り組める環境整備や指導に努めたか。	a		A	A
業務改善	教育の質的向上と効率化の両立を目指した業務改善を進めることができたか。	b	長時間勤務の教員が一部いる実態から,家庭や地域への周知を行いながらさらに業務縮減を進める。	A	B
家庭や地域との連携・協働	目標・ビジョンをコミュニティ・スクール,家庭,地域と共有し,家庭・地域の願いを反映し,「共に育てる教育」を推進しようと努めていたか。	a		A	A

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた (8割以上)
b	概ね達成できた (6割以上)
c	十分ではない (4割以上)
d	達成できなかった (4割未満)

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり,取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが,若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが,若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。